

令和元年6月20日現在

機関番号：34205

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17418

研究課題名(和文) ブラジルの校長直接選挙に関する実証的研究：求められる校長像とその能力

研究課題名(英文) The study of direct election of school principals in Brazil: principal figure and its ability that are required

研究代表者

田村 徳子 (TAMURA, Noriko)

びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・講師

研究者番号：10738850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：ブラジルの公立初等中等学校では、校長を教職員、保護者、児童生徒が一人一票を投じて選考する「校長直接選挙」と呼ばれる制度が存在する。本研究では、校長直接選挙において求められる校長像とその能力を明らかにすることを目的とした。検討の結果、立候補者に求められる制度上の資格要件があることを前提として、校長直接選挙で選ばれる人材の傾向としては、当該学校で予めより教員や教育専門士として勤務しており、その仕事ぶりから教職員や保護者から信頼を得ている人物で、学校運営に対する意欲やビジョンを有しているものであるということが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果として、これまで日本の教育学では認知されてこなかった校長直接選挙の制度とその実態を明らかにすることができた。これによって、日本の教育経営学や教育制度学に対して、世界に存在する新たな校長任用制度の知見を加えることができた。また、校長直接選挙の制度分析をとおして、ブラジルの教育観の一端を明らかにすることができた。このことは、日本とブラジルの教育制度の相互理解に貢献するものとなるだろう。

研究成果の概要(英文)：In Brazil, primary and secondary public schools have a system of direct election of school principals by teachers, school staff, parents and students. The purpose of this study is to clarify the school principal figure and its ability that are required in this system. Through the literature review and the field work conducted in the state of Parana and Para, the study finds the followings. First, on the condition that the regulations require professional qualification, the school principals who are recruited in this system have tend to be teachers or educational specialists who have worked in the school. Second, they have obtained the trust of the teachers and parents. Third, they have clear motivation or vision for school management. Forth, therefore there is a tendency for the incumbent principal to run for a number of times and to be elected. From the above, it is pointed out that this system is functioning so as to be able to select appropriate person for school management.

研究分野：比較教育学

キーワード：教育 ブラジル 校長 地域社会の学校参加 選挙 民主主義 教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ブラジルの公立初等中等学校では、教職員、保護者、児童生徒が一人一票を投じて校長を選考する「校長直接選挙」と呼ばれる、世界でも類をみない制度が存在している。校長直接選挙の導入は、1970年代後半から高まる軍事政権に対する社会運動を背景として、従来の政治的理由による校長採用の弊害を改善しようと、教員の労働運動のなかで求められたものである。1982年にパラナ州で初めて実施されて以降、校長直接選挙は他の州や自治体にも拡大し、2010年ではブラジル全26州・1連邦直轄区のうち16の州・連邦直轄区で導入されるほど、ブラジルで主流な校長採用制度となっている。

一方、1990年代以降のブラジルをみると、一連の教育改革が取り組まれ、学校の自主性・自律性の拡大や、学力調査の実施、家庭や地域社会の学校参加などが図られている状況がある。つまり、校長には、学校を効率的かつ効果的に運営するための一層の専門性が求められるようになった。このことをふまえると、つぎのような疑問が生じてくる。それは、校長直接選挙によって、果たして適切な資質・能力を有した校長を選考できているのかという疑問である。近年のブラジルの教育改革の流れのなかで校長直接選挙という制度がいかんして並存しているのか。このことを解明するうえで、校長直接選挙によって選ばれる校長の人物像や能力を検討することは、一つの重要な点であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究では、ブラジルの一般的な校長の特徴を整理したうえで、校長の視点から校長直接選挙において求められる校長像とその能力を明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究は、ブラジルの校長および校長直接選挙に関する文献資料の収集・分析、パラナ州とパラ州での校長への聞き取り調査および、教育行政機関への聞き取り調査の3つを軸に進めた。そしてこれらの調査をとおして得られた知見を総合的に検討し、ブラジルの校長直接選挙で選ばれる校長像を考察した。

### 4. 研究成果

まず、ブラジルの一般的な校長の傾向として、OECD国際教員指導環境調査(TALIS)の2013年調査結果を検討した結果、40歳代で、女性、大学学部もしくは大学院修士課程レベルの修了者である傾向があることが指摘できた。こうした傾向は諸外国と比較するならば、年齢層が若いという点、また女性が多いという点で特徴的である。このようなブラジルの校長の特徴を念頭におきながら、ブラジル国家教育調査研究所(INEP)が2年に1度、おこなっている学校調査の2015年の結果を使い、校長直接選挙によって就任する校長の特徴を検討した。その結果、指名制によって就任した校長と比べ、学歴(高等教育修了者と大学院修了者)が高いということ、教員からの評価が高いということ、さらに男性の割合が高いということが指摘できた。もともと、校長の女性割合が高いという状況をふまえると、校長直接選挙制度はこうした校長の性別のバランスを改善するように機能している可能性があることが窺えた。

つぎに、ブラジルの校長直接選挙の制度内容について全国的傾向を検討すると、校長直接選挙に立候補するための資格要件の設定によって、選ばれる人材の専門性が確保される仕組みが確立されていることが分かった。この点について、パラナ州では、2015年で制度変化が確認された。それは、2015年までの規定では教員養成課程を修了しており、立候補する学校に3ヶ月程度の勤務経験があれば立候補できていたものが、2015年の規定改正によって、従来の条件に加え、学校運営に関する研修の受講経験や、大学院における学校運営学コースの学位の取得、学校活動計画案の策定が求められるようになった。一方、パラ州では、基本的には教員養成課程を修了していることが規定されており、その点に変更はみられなかった。また、パラナ州とパラ州の両州ともに、任用後の校長の評価が組み込まれることが近年の動向として確認された。具体的には、パラナ州においては、4年任期の中間に学校評議会による審査がおこなわれ、パラ州においても就任第30か月目に同様の審査がおこなわれる規定が組み込まれた。

そして、現地調査をとおして明らかとなったのはつぎのことである。パラナ州では教職員や保護者からの支持基盤があり、かつ自信や意欲のあるものが立候補する傾向にあった。そして、校長直接選挙で選ばれ、いったん校長に就任すると、その校長は教職員や保護者から支持され続けるとともに、自身も校長をやり続けたいと思う傾向にあることがみえてきた。それは、校長直接選挙で選ばれることが、教職員や保護者からの支持を受けていることの証となり、学校運営へのさらなる自信や意欲につながっているものと解される。また、教育行政機関教への聞き取りからは、校長となった人材は、将来的には教育局長になったり、政治家になったりすることが少ないという。また、校長がカリスマ的存在であることも指摘された。一方、パラ州でもパラナ州と同様に、各学校において信頼を得ていることが立候補の基盤にあった。これに加え、校長直接選挙への立候補条件にみあう資格をもっていることも、選ばれる上での重要な点であることが明らかとなった。というのも、パラ州では、校長職が待遇面から不人気な職

業となっていることや、立候補に際し、制度規定とは別に、高等教育で学校運営学を専攻していることが条件として付加されているがために、各学校において立候補者の確保を困難にさせている状況がある。結果的に、各学校で立候補するのは1名であることが少なくなく、しかもその人材は、現職の校長あるいは副校長である傾向にある。そして、現職の校長が校長であり続けるモチベーションとなっているのは、校長という立場への満足感や学校コミュニティに対する愛着であるということが示唆された。

以上のように、パラナ州では、校長直接選挙をとおして、教職員および保護者からの信頼を得ている人物が選出されており、しかもその後、数期に亘り校長を継続している傾向にあることが明らかとなった。校長直接選挙で選ばれた校長は、学校のみならず、当該社会で一目を置かれる存在であり、将来的には、教育行政や政治に関わる傾向にある。つまり、校長直接選挙は、地域社会からの人望を集め、地域社会のニーズを政治へと反映する人材が選ばれていると捉えられたのである。一方、パラ州では、地域社会に存在する限られた有資格者(高学歴者)を校長へ抽出されていることが明らかとなった。パラ州では、高等教育への進学自体がごく一部のみに限られており、そういったなかで教員養成や学校運営者養成を受けている人材は一層貴重な存在である。こうした状況下で、校長直接選挙は、地域社会に潜在する校長の有資格者を抽出しするように機能していると捉えられた。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計4件)

田村徳子「ブラジルにおける校長直接選挙：行政的専門性確保と民主的コントロールの関係」(査読付)『比較教育学研究』第54号、2017年、24-43頁。

田村徳子「採用方法からみるブラジルの校長の特徴：校長直接選挙に着目して」(査読付)『びわこ成蹊スポーツ大学 研究紀要』第14号、2017年、83-95頁。

田村徳子「(アカデミックアワー研究報告)ブラジルの校長先生の選び方」『びわこ成蹊スポーツ大学 研究紀要』第14号、2017年、197-199頁。

田村徳子「校長直接選挙への立候補理由：パラナ州の校長の語りからの分析」(査読付)『びわこ成蹊スポーツ大学 研究紀要』第16号、印刷中。

### 〔学会発表〕(計4件)

田村徳子「ブラジル南部パラナ州における校長直接選挙の動向」日本比較教育学会第52回大会、大阪大学、2016年6月。

田村徳子「ブラジル南部パラナ州における2015年校長直接選挙法の改定」日本教育制度学会第24回大会、中央大学、2016年11月。

田村徳子「ブラジルの校長直接選挙の展開における現実と課題：北部パラ州における教育行政と学校の関係」日本比較教育学会第53回大会、東京大学、2017年6月。

田村徳子「ブラジルの校長直接選挙で選ばれる校長の特徴：パラナ州での校長の語りからの分析」関西教育行政学会例会、国際高等研究所、2018年11月。

### 〔図書〕(計0件)

なし

### 〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

6．研究組織

(1)研究分担者  
なし

(2)研究協力者  
なし